

臨床心理学特論 I				単位数	2単位
授業コード	M5000	科目ナンバーリング		開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	相原 彰子				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	臨床心理論				
本授業の概要					
臨床心理学とは何か、原理と方法論、歴史について、具体的な臨床活動と関連づけながら理解を深める。また、高度専門職業人として臨床心理士・公認心理師について、専門家としての成長過程、職業倫理、社会的責任、記録の採り方、資格制度及び他職種との連携等について学ぶ。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標		対応するディプロマポリシー ( 1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性 )			
1	臨床心理学とは何か、その原理と方法論について理解して、説明できる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	心理臨床家のひとつのモデルとして臨床心理士の資格について理解して、説明できる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準		対応する到達目標の番号			
1	受講態度 (20%)			1/2/3	
2	複数のレポート課題 (80%)			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回 臨床心理学とは 第2回 臨床心理学の歴史 第3回 臨床の知と科学の知 第4回 臨床心行為と医行為 第5回 事例研究とその意義 第6回 事例研究の方法 第7回 事例研究と臨床心理学 第8回 臨床心理専門家としての発達段階 第9回 職業倫理I 基本 第10回 職業倫理II 事例 第11回 守秘義務 第12回 記録 第13回 関連諸機関の機能と役割I 保健医療分野 第14回 関連諸機関の機能と役割II 福祉分野 第15回 他職種との協働 第16回 定期試験（レポート）					

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 予習：当該学習分野の関連書籍や論文を読み、疑問点をまとめておくこと（60分） 復習：学習内容を振り返ってまとめておくこと（30分）、関連書籍を読み直して、興味が深まった部分をまとめておくこと（30分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 必要に応じて、提示配布する
オフィスアワー 水曜日 3限
連絡先 sugihara@m.ndsu.ac.jp
留意事項 受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な参加を望む。

臨床心理学特論 I I					単位数	2単位
授業コード	M5010	科目ナンバーリング		開講年度学期	2023年度第2期	
担当者氏名	中内 みさ					
時間割備考						
授業形態（主）	1 講義					
授業形態（副）	2 演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	臨床心理論					
本授業の概要						
本授業では、ロジャーズおよびユングの著述をとりあげ、意見発表や討論を通して、ロジャーズやユングの理論の理解を深める。また、それらの理論が臨床現場でどのように生かされているかを考察する。						
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション				
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)				
1	ロジャーズのカウンセリング理論を説明することができる。					
2	ユングの無意識についての考え方を説明することができる。					
3	ロジャーズの理論がどのように実際の臨床現場で生かされているかを事例を通して論じることができる。					
4	ユングの無意識の考え方がどのように実際の臨床現場で生かされているかを事例を通して論じることができる。					
5						
成績評価の基準		対応する到達目標の番号				
1	2回のレポート (60%)					1/2/3/4
2	討論への積極的な参加 (40%)					1/2/3/4
3						
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目						
実務経験の授業への活用方法						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
1	オリエンテーション					
2	「カウンセリング」を読む 1 第1章 緒論					
3	「カウンセリング」を読む 2 第2章 カウンセリングとサイコセラピィにおける新旧両見地					
4	「カウンセリング」を読む 3 第3章 カウンセリングはいつ必要とされるか？					
5	「カウンセリング」を読む 4 第4章 カウンセリング関係の創設					
6	「カウンセリング」を読む 5 第5章 指示的アプローチと非指示的アプローチ					
7	「カウンセリング」を読む 6 第6章 自由に表現するようにすること					
8	「カウンセリング」を読む 7 第7章 洞察の達成					
9	「カウンセリング」を読む 8 第8章 終結時の諸様相					
10	まとめ					
11	「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む 1 夢の重要性～無意識の過去と未来					
12	「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む 2 夢の機能～夢の分析					
13	「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む 3 タイプの問題～夢象徴における元型					
14	「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む 4 人間のたましい～象徴の役割					
15	「人間と象徴 I 無意識の接近」を読む 5 断絶の治癒					
16	まとめ					

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業を受けるにあたっては、文献の指定された箇所を読んで、その内容に関して自分の意見や疑問をまとめておくこと（約40分）。 授業後は、討論を振り返り、コメントや意見をまとめ、それを参考に文献を読み返しておくこと（約40分）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 【必携書】 <ul style="list-style-type: none"><li>・ロジャーズ 「カウンセリング」岩崎学術出版社 あるいは 「カウンセリングと心理療法実践のための新しい概念」岩崎学術出版社 （どちらでも可）</li><li>・ユング「人間と象徴 無意識の世界 上」河出書房新社</li></ul>
オフィスアワー 月曜日2限目および水曜日3限目
連絡先 中内 mnakauchi@post. ndsu. ac. jp
留意事項 授業では意見発表や討論を行います。人の心に携わる者としての自覚と積極的で誠実な態度を望みます。

臨床心理学演習A					単位数	2単位
授業コード	M5050	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第1期	
担当者氏名	中内 みさ					
時間割備考						
授業形態（主）	2 演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	臨床心理論					
本授業の概要	臨床心理学の研究方法や倫理を理解する。また、事例報告書・研究論文の執筆の仕方について学び、心理臨床に関する学術論文を作成するための基礎的能力を習得する。					
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション					
到達目標	対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)					
1	研究における責務と倫理を説明できる。					
2	事例に応じた報告書を書くことができる。					
3	心理臨床に関する研究の視点と方法について説明できる。					
4						
5						
成績評価の基準	対応する到達目標の番号					
1	レポートあるいは事例報告書の作成 (50%) 2					
2	発表 (30%) 1/3					
3	討論への積極的な参加 (20%) 1/3					
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目						
実務経験の授業への活用方法						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
1. オリエンテーション	臨床心理学演習の目的と授業計画					
2. 研究倫理に関して 1	研究の責任					
3. 研究倫理に関して 2	個人情報の保護および発表の仕方					
4. 事例研究 1	子育て支援に関する事例研究（親）					
5. 事例研究 2	子育て支援に関する事例研究（子）					
6. 事例報告の書き方 1	子育て支援					
7. 事例報告の書き方 2	カウンセリング					
8. 事例報告の書き方 3	プレイセラピー					
9. ケーススタディ						
10. 研究論文の書き方 1	研究者から学ぶ					
11. 研究論文の書き方 2	根拠づけ					
12. 研究論文書き方 3	質的データ					
13. 研究論文の書き方 4	事例研究					
14. 研究論文の書き方 5	当事者研究					
15. 研究論文の書き方 6	まとめ					

定期試験
試験のフィードバックの方法
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回、指定された文献を読み、自分の考えをまとめておくこと（約60分）。 授業後は、学んだことを簡潔にまとめておくこと（約30分）。</p>
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 【必携書】 森岡正芳・大山泰宏（編）（2014）臨床心理職のための「研究論文の教室」研究論文の読み方・書き方ガイド。臨床心理学増刊第6号。金剛出版。 日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会（編）（2015）科学の健全な発展のために-誠実な科学者の心得-。丸善出版。 その他、隨時指示する。
オフィスアワー 月曜日の4限目および水曜日の3限目
連絡先 mnakauchi@post.ndsu.ac.jp
留意事項 人の心に携わる研究者としての自覚、謙虚で誠実な態度を望む。

臨床心理学演習B					単位数	2単位
授業コード	M5055	科目ナンバーリング		開講年度学期	2023年度第2期	
担当者氏名	中内 みさ					
時間割備考						
授業形態（主）	2 演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	臨床心理論					
本授業の概要	事例研究や自分自身の心理実践の体験に基づいて、心理理解の方法など心理臨床実践の基礎を身につける。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション				
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)				
1	事例研究を通して、様々な発達段階や技法に応じた心理臨床の概要や鍵概念を説明できる。					
2	事例研究を通して、様々な発達段階に応じて心理臨床活動を実践する際の留意点を説明できる。					
3						
4						
5						
成績評価の基準		対応する到達目標の番号				
1	レポート (50%)					1/2
2	発表 (30%)					1/2
3	討論への積極的な参加 (20%)					1/2
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目						
実務経験の授業への活用方法						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
1. 事例研究 1 幼児の支援に関する事例研究 2. 事例研究 2 児童の支援に関する事例研究 3. 事例研究 3 思春期の子どもの支援に関する事例研究 4. 事例研究 4 青年の支援に関する事例研究 5. 事例研究 5 成人の支援に関する事例研究 6. 事例研究 6 高齢者の支援に関する事例研究 7. 事例研究 7 カウンセリングに関する事例研究 8. 事例研究 8 プレイセラピーに関する事例研究 9. 箱庭療法の実際 10. 事例研究 9 箱庭療法に関する事例研究 11. 芸術療法の実際 絵画療法を中心に 12. 事例研究 10 芸術療法に関する事例研究 13. 身体動作法およびストレスマネジメントの実際 14. 事例研究 11 身体動作法の事例研究 15. 事例研究 12 障害児の支援に関する事例研究						

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 事例で適用されているカウンセリング／心理療法技法に関して調べて概要を理解しておくこと（約30分）。 授業後は、事例検討を通して得た新しい観点や解釈などを自分の言葉でまとめておく（約30分）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 随時指示する。
オフィスアワー 月曜日の2時限目および水曜日の3時限目
連絡先 中内 mnakauchi@post. ndsu. ac. jp
留意事項 人の心に携わる研究者としての自覚、謙虚で誠実な態度を望む。

臨床心理学演習A					単位数 2単位
授業コード 担当者氏名	M5060 西 隆太朗	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第1期	
時間割備考					
授業形態（主） 授業形態（副） 担当形態	2 演習 単独				
研究分野（大学院） 本授業の概要	臨床心理学における研究方法について学び、自らの研究を進める。とくに、心理臨床にかかわる体験・事例を読み解くこと、先行研究の批判的検討を重視し、精神分析学的・ユング心理学的研究の方法を修得する。				
アクティブラーニングの実施内容	発見学習				
到達目標			対応するディプロマポリシー ( 1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性 )		
1	臨床心理学における研究方法の基礎を身につけ、自らの研究テーマについて、関連する基礎的文献を把握し、レビューすることができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準	対応する到達目標の番号				
1	演習時の発表内容（50%）、ディスカッションへの参加（50%）によって、総合的に評価する。 1				
2					
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理学の研究方法について</li> <li>2. 臨床心理学における研究テーマの設定について</li> <li>3. 院生自身の研究テーマとその研究方法について</li> <li>4. 臨床心理学における論文の執筆について</li> <li>5. 心理臨床に関する研究方法について</li> <li>6. 研究方法に関する文献講読</li> <li>7. 関与観察による研究のあり方について</li> <li>8. 事例研究の方法論について</li> <li>9. 事例研究に関する文献講読</li> <li>10. 心理臨床における体験の理解</li> <li>11. 院生自身の研究分野に関する文献の検討</li> <li>12. 院生自身の研究テーマに関する文献の検討</li> <li>13. 先行文献の展望について</li> <li>14. 心理臨床にかかわる事例素材の記述について</li> <li>15. 心理臨床にかかわる事例解釈のあり方について</li> </ol> <p>上記の内容に関する基礎的部分を網羅的に学ぶ。</p>				

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 予習（2時間）：自らの研究テーマに即した基礎文献を読み込み、発表を組み立てる。 復習（2時間）：演習でのディスカッションをもとに、自らの研究テーマへの理解を深め、次の演習に向けて文献を調査する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 講義中に隨時指示する。
オフィスアワー 火曜4限・金曜2限
連絡先 西隆太朗 nishi@post.ndsu.ac.jp
留意事項 自らのテーマについて文献等を踏まえ、主体的に探究することを奨励する。

臨床心理学演習B					単位数	2単位
授業コード	M5065	科目ナンバーリング		開講年度学期	2023年度第2期	
担当者氏名	西 隆太朗					
時間割備考						
授業形態（主）	2 演習					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	臨床心理論					
本授業の概要	臨床心理学における研究方法について学び、自らの研究を進める。とくに、心理臨床にかかわる体験・事例を読み解くこと、先行研究の批判的検討を重視し、精神分析学的・ユング心理学的研究の方法を修得する。					
アクティブラーニングの実施内容	発見学習					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)		
1	臨床心理学における研究方法の基礎を身につけ、自らの研究テーマについて、関連する基礎的文献を把握し、レビューすることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
2						
3						
4						
5						
成績評価の基準	対応する到達目標の番号					
1	演習時の発表内容（50%）、ディスカッションへの参加（50%）によって、総合的に評価する。 1					
2						
3						
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目						
実務経験の授業への活用方法						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理学の研究方法について</li> <li>2. 臨床心理学における研究テーマの設定について</li> <li>3. 院生自身の研究テーマとその研究方法について</li> <li>4. 臨床心理学における論文の執筆について</li> <li>5. 心理臨床に関する研究方法について</li> <li>6. 研究方法に関する文献講読</li> <li>7. 関与観察による研究のあり方について</li> <li>8. 事例研究の方法論について</li> <li>9. 事例研究に関する文献講読</li> <li>10. 心理臨床における体験の理解</li> <li>11. 院生自身の研究分野に関する文献の検討</li> <li>12. 院生自身の研究テーマに関する文献の検討</li> <li>13. 先行文献の展望について</li> <li>14. 心理臨床にかかわる事例素材の記述について</li> <li>15. 心理臨床にかかわる事例解釈のあり方について</li> </ol> <p>前期の演習を踏まえて、上記の内容に関する応用的部分を学び、修士論文の執筆を目指す。</p>						

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 予習（2時間）：自らの研究テーマに即した基礎文献を読み込み、発表を組み立てる。 復習（2時間）：演習でのディスカッションをもとに、自らの研究テーマへの理解を深め、次の演習に向けて文献を調査する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 講義中に隨時指示する。
オフィスアワー 火曜4限・金曜2限
連絡先 西隆太朗 nishi@post.ndsu.ac.jp
留意事項 自らのテーマについて文献等を踏まえ、主体的に探究することを奨励する。

臨床心理学演習A					単位数	2単位
授業コード	M5070	科目ナンバーリング		開講年度学期	2023年度第1期	
担当者氏名	日下 紀子					
時間割備考						
授業形態（主）	2 演習					
授業形態（副）	1 講義					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	臨床心理論					
本授業の概要						
臨床心理学ならびにその近接領域の文献を講読し、重要な鍵概念と倫理、研究方法の基本を学ぶ。また、現代社会における人間の営みと心をとりまく課題について、自らのこれまでの経験や文献研究、心理臨床実習体験に基づいた臨床心理学の視点からの問い合わせを促す。その問い合わせに対して、先行研究をレビューし、さらに深く追究し考察をすすめるための討論を行う。そして学生自ら研究テーマを確立していくよう指導する。						
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション				
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)				
1	臨床心理学における重要な概念を理解し、臨床課題に基づいた適切な研究の視点と方法について説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
2	文献を読みこなし、先行研究を踏まえて、自らの心理臨床における問い合わせをたてることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
3	問い合わせに対して追究し、そのプロセスと結果、考察をまとめることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
4	研究における倫理と責務を理解し説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
5				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
成績評価の基準		対応する到達目標の番号				
1	受講態度と取り組み。20%			1/2/3		
2	課題レポート（3回）40%			1/2/3/4		
3	期末課題レポート 40%			1/2/3/4		
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目		実務あり				
実務経験の授業への活用方法						
医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わってきた経験から、現代社会における臨床的課題、心理社会的発達課題との関連について討議する。学生自身は、自らの研究テーマに関する最新の知見や研究、文献をとりあげ、自らの経験と照合しながら多角的・多面的に考え、研究の方向性を確立していくよう授業を展開する。						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 研究倫理（研究の責任）</li> <li>3. 生命の尊厳・尊重と研究倫理（個人情報の保護）</li> <li>4. 臨床心理学における研究法</li> <li>5. 基礎文献講読 1（無意識と心の機能）</li> <li>6. 基礎文献講読 2（情緒発達論）</li> <li>7. 基礎文献講読 3（パーソナリティの発達と病理）</li> <li>8. 基礎文献講読 4（対象関係論とその展開）</li> <li>9. 研究の問い合わせをたてる</li> <li>10. 質的研究について</li> <li>11. 自らの研究テーマに関する先行研究講読と討論</li> <li>12. 先行研究の批判的検討</li> <li>13. 先行研究レビューと理論的枠組みの構築</li> <li>14. 研究計画の実際</li> <li>15. 調査（実験）研究の準備</li> <li>16. 中間発表</li> </ol>						

定期試験 課題レポート
試験のフィードバックの方法 レポート返却
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 予習：研究テーマに基づく資料文献の下調べ 1時間 復習：討論をまとめ、疑問に対して文献等で探索を進める 1時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 講義中に隨時配布し、指示する。
オフィスアワー 木曜日4限目
連絡先 noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項 受講者自身の体験や実感を重ね合わせて問い合わせを立て、考察し、誠実に討論をすすめること。そのためには、現代社会をとりまく問題に広く関心を向け、主体的、積極的に追究する姿勢をもつよう努める。

臨床心理学演習B					単位数	2単位	
授業コード	M5075	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第2期		
担当者氏名	日下 紀子						
時間割備考							
授業形態（主）	2 演習						
授業形態（副）	1 講義						
担当形態	単独						
研究分野（大学院）	臨床心理論						
本授業の概要							
臨床心理学ならびにその近接領域の文献を講読し、重要な鍵概念と倫理、研究方法の基本を学ぶ。また、現代社会における人間の営みと心をとりまく課題について、自らのこれまでの経験や文献研究、心理臨床実習体験に基づいた臨床心理学の視点からの問い合わせを促す。その問い合わせに対して、先行研究をレビューし、さらに深く追究し考察をすすめるための討論を行う。そして学生自ら研究テーマを確立していくよう指導する。							
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション					
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)				
1	臨床心理学における重要な概念を理解し、臨床課題に基づいた適切な研究の視点と方法について説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性			
2	文献を読みこなし、先行研究を踏まえて、自らの心理臨床における問い合わせをたてることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性			
3	問い合わせに対して追究し、そのプロセスと結果、考察をまとめることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性			
4	研究における倫理と責務を理解し説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性			
5				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号					
1	受講態度と取り組み。20%			1/2/3			
2	課題レポート（3回）40%			1/2/3/4			
3	期末課題レポート 40%			1/2/3/4			
4							
5							
実務経験のある教員による授業科目		実務あり					
実務経験の授業への活用方法							
医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わってきた経験から、現代社会における臨床的課題、心理社会的発達課題との関連について討議する。学生自身は、自らの研究テーマに関する最新の知見や研究、文献をとりあげ、自らの経験と照合しながら多角的・多面的に考え、研究の方向性を確立していくよう授業を展開する。							
日本語以外の言語による授業							
授業予定一覧							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行研究のレビュー</li> <li>2. 先行研究を振り返り、問い合わせを見出す</li> <li>3. 研究倫理（研究の責任）</li> <li>4. 基礎文献講読 1（無意識と心の機能）</li> <li>5. 基礎文献講読 2（情緒発達論）</li> <li>6. 基礎文献講読 3（パーソナリティの発達と病理）</li> <li>7. 基礎文献講読 4（心理的支援とその展開）</li> <li>8. 研究の問題と目的</li> <li>9. 研究法の計画</li> <li>10. 調査（実験）研究の準備</li> <li>11. 調査（実験）研究の実施</li> <li>12. 調査（実験）研究データの集計</li> <li>13. 調査（実験）研究データの結果のまとめ</li> <li>14. 研究結果と考察</li> <li>15. 総合考察</li> </ol>							

定期試験 課題レポート
試験のフィードバックの方法 レポート返却
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 予習：研究テーマに基づく資料文献の下調べ 1時間 復習：討論をまとめ、疑問に対して文献等で探索を進める 1時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 講義中に隨時配布し、指示する。
オフィスアワー 木曜日4限目
連絡先 noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項 受講者自身の体験や実感を重ね合わせて問い合わせを立て、考察し、誠実に討論をすすめること。そのためには、現代社会をとりまく問題に広く関心を向け、主体的、積極的に追究する姿勢をもつよう努める。

臨床心理面接特論I（心理支援に関する理論と実践）				単位数	2単位																														
授業コード	M5150	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第1期																														
担当者氏名	日下 紀子																																		
時間割備考																																			
授業形態（主）	2演習																																		
授業形態（副）	2演習																																		
担当形態	単独																																		
研究分野（大学院）	臨床心理論																																		
本授業の概要																																			
<p>医療、教育、福祉、保健、産業、司法などの領域に生ずる心理的困難に照準を合わせ、臨床心理学的支援を実践するための心理面接、心理療法について理解し、それを実際に展開していくために必要な専門的知識ならびに基本となる面接法を的確に学ぶ。それを通して臨床心理学的な面接の基本的な技能を身に付ける。</p> <p>さらに上記領域ごとにおける心理療法の布置や意義の違い、理論的枠組みならびに技法について学び、それぞれの臨床現場で適切な心理支援を行うための見立て、面接の進め方、介入の在り方、多職種連携について講義と演習を通じて学修する。</p>																																			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク																																	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)																																
1	個人の心理的困難に照準を合わせ、臨床心理学的支援を実践するための心理面接、心理療法について理解し、説明できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性																																
2	臨床心理学的支援を展開していくため基本的な面接技能を実行できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性																																
3	臨床現場で適切な心理支援を行うための見立て、面接の進め方、介入の在り方、多職種連携について理解し、説明できる（特に2年次で行う福祉施設・適応指導教室実習および精神科を中心とする病院実習の基礎を固める）。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性																																
4	心理に関する支援を要する者の特性や状況を的確に把握し、どのように見立てるのかを説明できる。		知識・技能／思考・判断・表現力																																
5	心理療法ならびに心理に関する相談、助言、指導等をどのように行うのかを説明し、実行できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性																																
成績評価の基準			対応する到達目標の番号																																
1	授業受講態度 30%		1/2/3/4/5																																
2	課題レポート（論文読解、学習内容の理解度）30%		1/2/3/4/5																																
3	期末課題レポート40%		1/2/3/4/5																																
4																																			
5																																			
実務経験のある教員による授業科目		実務あり																																	
実務経験の授業への活用方法																																			
医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わってきた経験から事例をとりあげ、ロールプレイなどのワークも取り入れ、臨床心理面接に必要な精神力動の理解について多角的・多面的に考える力の構築を促す授業を展開する。																																			
日本語以外の言語による授業																																			
授業予定一覧																																			
<table border="1"> <tr><td>第1回</td><td>心理支援・心理療法の意義とその理論</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>力動論に基づく心理療法とその理論</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>行動論・認知論に基づく心理療法とその理論</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>領域別での心理支援と心理療法</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>初回面接と見立て</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>対象者の特性や状況を理解するための耳の傾け方</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>面接における観察と基本的な聴き方と心を感知する聴き方（演習）</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>介入・解釈技法</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>心理面接・心理療法の導入</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>心理面接・心理療法の展開</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>心理面接・心理療法のプロセスにおける関係性の理解</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>治療の行き詰まり</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>治療の中斷や治療者の不在、終結をめぐって</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>多職種や家族との連携</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>対象者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択と調整</td></tr> </table>						第1回	心理支援・心理療法の意義とその理論	第2回	力動論に基づく心理療法とその理論	第3回	行動論・認知論に基づく心理療法とその理論	第4回	領域別での心理支援と心理療法	第5回	初回面接と見立て	第6回	対象者の特性や状況を理解するための耳の傾け方	第7回	面接における観察と基本的な聴き方と心を感知する聴き方（演習）	第8回	介入・解釈技法	第9回	心理面接・心理療法の導入	第10回	心理面接・心理療法の展開	第11回	心理面接・心理療法のプロセスにおける関係性の理解	第12回	治療の行き詰まり	第13回	治療の中斷や治療者の不在、終結をめぐって	第14回	多職種や家族との連携	第15回	対象者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択と調整
第1回	心理支援・心理療法の意義とその理論																																		
第2回	力動論に基づく心理療法とその理論																																		
第3回	行動論・認知論に基づく心理療法とその理論																																		
第4回	領域別での心理支援と心理療法																																		
第5回	初回面接と見立て																																		
第6回	対象者の特性や状況を理解するための耳の傾け方																																		
第7回	面接における観察と基本的な聴き方と心を感知する聴き方（演習）																																		
第8回	介入・解釈技法																																		
第9回	心理面接・心理療法の導入																																		
第10回	心理面接・心理療法の展開																																		
第11回	心理面接・心理療法のプロセスにおける関係性の理解																																		
第12回	治療の行き詰まり																																		
第13回	治療の中斷や治療者の不在、終結をめぐって																																		
第14回	多職種や家族との連携																																		
第15回	対象者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択と調整																																		

定期試験 期末課題レポート
試験のフィードバックの方法 レポート返却
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 (予習) 基礎文献を読み、授業内容に関する基本的な知識を理解しておくこと (1時間) (復習) 自らの経験と照合しつつ、事例論文などを読み、理論と臨床実践の実際との理解を結びつけるように努めること (1時間) 計30時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 土居健郎 (1992) 「新訂 方法としての面接 臨床家のために」 医学書院 グレン・O・ギャバード著 (2014) ・奥寺他監訳 (2019) 「精神力動的精神医学 第5版 その臨床実践」 岩崎学術出版社 前田重治 (2014) 「新図説 精神分析的面接入門」 誠信書房 松木邦裕 (2016) 「改訂増補 私設対象関係論的心理療法入門」 金剛出版 松木邦裕 (2015) 「耳の傾け方-こころの臨床家を目指す人たちへ」 岩崎学術出版社
オフィスアワー 木曜日4限
連絡先 noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項 方法論の理解と心理面接に臨むためには、自らの心を使い、まず多くの事例報告に触れ、その詳読を重ねること、問い合わせ立て、その問い合わせを追究する、考えることが重要である。さらに自らの経験を通して触れるものは、いずれについても「面接の方法論」という枠組みでとらえてみる態度と耳の傾け方を日頃から意識しておくこと。

臨床心理面接特論 I I					単位数	2単位	
授業コード	M5160	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第2期		
担当者氏名	東 俊一						
時間割備考							
授業形態（主）	1 講義						
授業形態（副）							
担当形態	単独						
研究分野（大学院）	臨床心理論						
本授業の概要							
学習理論を理解したうえで、行動論的アプローチの方法を中心にアセスメントのポイントや基本的指導技法について学び、教育・福祉・医療分野における適用について検討する。							
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習					
到達目標			対応するディプロマポリシー ( 1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性 )				
1	行動論にもとづいたアセスメントや指導技法について理解したうえで、各分野において指導技法・手続きの選択、および計画を作成できることを目的とする。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性			
2							
3							
4							
5							
成績評価の基準		対応する到達目標の番号					
1	授業内での発表(50/100)			1			
2	レポート(50/100)			1			
3							
4							
5							
実務経験のある教員による授業科目		実務あり					
実務経験の授業への活用方法							
岡山県教育委員会でのスクールカウンセラー、岡山市教育委員会でのスクールカウンセラー、スーパーバイザー業務に携わっている経験から、近年の児童が抱える心理・行動上の問題やそのアセスメントのあり方、それに対する予防と早期発見・支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、学校・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。							
日本語以外の言語による授業							
授業予定一覧							
第 1 回 : 行動と学習 第 2 回 : レスポンデント条件付け 第 3 回 : オペラント条件付け 第 4 回 : 介入の倫理 第 5 回 : 測度と観察法 第 6 回 : 実験計画法 第 7 回 : レスponsデント技法 1 第 8 回 : レスponsデント技法 2 第 9 回 : 行動アセスメント（機能分析） 第 10 回 : 行動アセスメント（課題分析） 第 11 回 : オペラント技法 1 (反応増大) 第 12 回 : オペラント技法 2 (反応減少) 第 13 回 : オペラント技法 3 (刺激性制御) 第 14 回 : オペラント技法 4 (シェイピング) 第 15 回 : 般化							

定期試験
試験のフィードバックの方法 授業内で発表に対するフィードバックをする。 必要に応じて質問に対応する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 この授業では、1回目に資料を配布します。毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと（30分）。 授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること（30分）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 適宜、指示・紹介する
オフィスアワー 月曜日1限
連絡先 s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

臨床心理査定演習I（心理的アセスメントに関する理論と実践）					単位数	2単位
授業コード	M5170	科目ナンバーリング		開講年度学期	2023年度第1期	
担当者氏名	日下 紀子					
時間割備考						
授業形態（主）	2 演習					
授業形態（副）	1 講義					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	臨床心理論					
本授業の概要						
医療、福祉、保健、司法、教育、産業の各領域における人間を多角的にとらえるための心理査定（心理アセスメント）の意義と位置づけ、その理論について学ぶ。臨床現場で高頻度に施行される知能検査、自己評価式人格検査、投影法人格検査の実施法、評定評価法を学ぶとともに、演習を通してその基本的な技法を身に付ける。さらに査定報告書の作成を含めたフィードバックのあり方、適切な心理に関する相談、助言、指導等について事例を通して理解を深め、その実践のための基盤を構築する。						
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク				
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)				
1	(公認心理師・臨床心理士の実践における)一般的な臨床現場や2年次実習現場で高頻度に活用される心理アセスメントの意義ならびに理論と方法について説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力		
2	臨床現場で出会う人の心を多角的、多面的に客観的に理解するための心理アセスメントを実施できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
3	臨床現場において実施した心理アセスメント所見を作成し、心理に関する相談、助言、指導等へつなげて伝えることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
4						
5						
成績評価の基準		対応する到達目標の番号				
1	協力被検者を設定し、知能検査、自己評価法、投影法（描画法、PF スタディ、SCT等）、その他の心理検査を正確に実施する。 40%			1/2/3		
2	各心理検査の実施から査定報告文を作成する。 30%			1/2/3		
3	期末課題レポート 30%					
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目		実務あり				
実務経験の授業への活用方法 医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わってきた経験から、臨床心理査定に必要な技能の習得にむけて、より臨床実践的な授業を組み立て展開する。						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
第 1 回 心理査定の意義と位置づけ 第 2 回 知能検査の意義・背景理論と位置づけ 第 3 回 知能検査の実施法と実施 第 4 回 知能検査の評定評価法と分析 第 5 回 知能検査の所見報告書作成 第 6 回 自己評価式人格検査の意義・背景理論と位置づけ 第 7 回 自己評価式人格検査の実施と評定評価法 第 8 回 自己評価式人格検査の所見報告書作成 第 9 回 投影法の意義・背景理論と位置づけ 第 10 回 投影法の実施と実施 第 11 回 投影法（描画法）の評定評価法と分析 第 12 回 投影法（SCT）とその他の心理検査の実施と評定評価法と分析 第 13 回 投影法の所見報告書作成 第 14 回 テストバッテリーの組み方と総合的評定評価 第 15 回 心理的アセスメントからのフィードバックならびに心理的相談、助言、指導への応用						

定期試験 期末課題レポート
試験のフィードバックの方法 レポート返却
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 予習 各種心理検査の内容と実施法について事前に学習しておくこと 1時間 復習 各種心理検査の実施法について修練するとともに、検査結果の集計処理を行う 1時間 計30時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 願興寺礼子・吉住隆弘（編）（2011）心理検査の実施の初步-心理学基礎演習Vol.5 ナカニシヤ出版 978-4-7795-0387-0 各心理検査用紙、道具、マニュアルなどは、提供し、必要な資料は配布する。
オフィスアワー 木曜日4限目
連絡先 noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項 検査の実施、評定評価など授業時間外での自主的で継続的な学習が大半を占めるといってよい。その覚悟をもって主体的に学修を積み重ねる努力を怠らないこと。

臨床心理査定演習 I I					単位数	2単位	
授業コード	M5180	科目ナンバーリング		開講年度学期	2023年度第2期		
担当者氏名	日下 紀子						
時間割備考							
授業形態（主）	2 演習						
授業形態（副）	1 講義						
担当形態	単独						
研究分野（大学院）	臨床心理論						
本授業の概要							
臨床現場で活用される頻度も高く、信頼性も高度であると共通認識されているところのロールシャッハ法（片口法）について理論と実践の両面から詳細に学び、臨床活用可能なレベルの技能の習得を目指す。							
アクティブラーニングの実施内容		体験学習					
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)					
1	ロールシャッハテストの基礎理論を理解し説明できる。		知識・技能／思考・判断・表現力				
2	ロールシャッハテストの実施からデータ処理、データ分析、評定を行うことができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性				
3	ロールシャッハテスト評価所見文を作成できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性				
4							
5							
成績評価の基準		対応する到達目標の番号					
1	基礎事項に関する課題提出 20%		1/2/3				
2	ロールシャッハテストのローデータのスコアリング、ベーシックスコアリングテーブル、サマリースコアリングテーブルを完成させて提出する。30%		1/2/3				
3	評価所見文の作成提出する。30%		1/2/3				
4	被験者にフィードバックする要点について説明できる。20%		1/2/3				
5							
実務経験のある教員による授業科目		実務あり					
実務経験の授業への活用方法							
医療機関や心理相談専門機関にて臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わってきた経験から事例をとりあげ、臨床面接への導入や適用に関する心理アセスメントの在り方について講義する。また、心理査定に必要な精神力動の理解とともに多角的・多面的に考え、分析する力の構築を促す授業を展開する。							
日本語以外の言語による授業							
授業予定一覧							
第 1 回 ロールシャッハテストの基礎理論の理解、意義と位置づけ 第 2 回 ロールシャッハテストの実施法と記号化法 第 3 回 反応領域の分類とその意味 第 4 回 反応決定因分類 1 (形態反応と運動反応) 第 5 回 反応決定因分類 2 (色彩反応と濃淡反応) 第 6 回 反応内容の分類とその意味 第 7 回 スコアリングのための基礎知識の確認 第 8 回 ロールシャッハテストの実施とスコアリング 第 9 回 スコア集計とスコアリングテーブルの作成 第 10 回 スコアリングテーブルの解読 (量的分析) 第 11 回 ロールシャッハテストの解釈-系列分析とテスト中の行動 第 12 回 総合的な解釈 第 13 回 事例の解釈の実際 第 14 回 評価評定所見文の作成 第 15 回 フィードバックについて・まとめ							

定期試験 期末課題レポート
試験のフィードバックの方法 レポート返却
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 予習 ロールシャッハの基礎的技能を習得するために、事前に予習し課題を行う 1時間 復習 授業で学んだ知識や技術を定着するために、繰り返しワークする。 1時間 計30時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 必携書 片口安史監修、藤岡新治・松岡正明著（1993）「ロールシャッハテストの学習 片口法スコアリング入門」金子書房 978-4-7608-4008-3 参考書 片口安史著（1987）「改訂 新・心理診断法」金子書房 978-4-7608-2548-7 検査用紙、道具は提供する。
オフィスアワー 木曜日4限目
連絡先 noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項 検査の実施、評定、評価など授業時間外での自主的な学習が大半を占めるといってよい。多くの事例に触れ、ロールシャッハ法の技術を自主的・主体的に習得するよう覚悟して意欲的に取り組み、修練してください。

臨床心理基礎実習A				単位数	1単位
授業コード	M5190	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	西 隆太朗、相原 彰子				
時間割備考					
授業形態（主）	2演習				
授業形態（副）	3実験・実習・実技				
担当形態	複数				
研究分野（大学院）	臨床心理論				
本授業の概要	ロールプレイを用いて、コミュニケーション記述の基本、相手を理解する方法、課題を読み取る視点、援助法などを学習する。				
アクティブラーニングの実施内容	体験学習				
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	臨床心理面接の基本技法を身に付け、実践することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	演習、実習、レポートにより、総合的に評価する。			1	
2					
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回 オリエンテーション 第2回 基礎文献講読1 第3回 基礎文献講読2 第4回 基礎文献講読3 第5回 基礎文献講読4 第6回 基礎文献講読5 第7回 ロールプレイ実習：基礎 第8回 逐語記録の作成 第9回 逐語記録の検討1 第10回 逐語記録の検討2 第11回 ロールプレイ実習：応答 第12回 逐語記録の作成 第13回 逐語記録の検討1 第14回 逐語記録の検討2 第15回 ロールプレイ実習の振り返り 定期試験（まとめ）					

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 事前学習（2時間）：基礎文献を読み込み、ロールプレイ記録を作成して考察する。 事後学習（2時間）：ロールプレイとディスカッションを振り返り、次回に向けての課題について考察する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 授業中に適宜指示する。
オフィスアワー 授業中に各教員から案内する。
連絡先 授業に関する問い合わせは西まで。nishi@post.ndsu.ac.jp
留意事項 受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な参加を望む。

臨床心理基礎実習B				単位数	1単位
授業コード	M5195	科目ナンバーリング	開講年度学期	2023年度第2期	
担当者氏名	西 隆太朗、相原 彰子				
時間割備考					
授業形態（主）	2演習				
授業形態（副）	3実験・実習・実技				
担当形態	複数				
研究分野（大学院）	臨床心理論				
本授業の概要 ロールプレイを用いて、コミュニケーション記述の基本、相手を理解する方法、課題を読み取る視点、援助法などを学習する。精神科病院、精神保健福祉センター、児童福祉施設などの見学をとおして、心理臨床の現場について知る。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標			対応するディプロマポリシー ( 1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性 )		
1	心理臨床の現場について知るとともに、臨床心理面接の基本技法を身に付け、実践することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準		対応する到達目標の番号			
1	演習、実習、レポートにより、総合的に評価する。			1	
2					
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第 1 回 精神科病院見学 第 2 回 精神保健福祉センター見学 第 3 回 児童福祉施設見学：児童相談所 第 4 回 児童福祉施設見学：児童心理治療施設 第 5 回 ロールプレイ実習：主訴 第 6 回 逐語記録の作成 第 7 回 逐語記録の検討 1 第 8 回 逐語記録の検討 2 第 9 回 逐語記録の検討 3 第 10 回 ロールプレイ実習：体験過程 第 11 回 逐語記録の作成 第 12 回 逐語記録の検討 1 第 13 回 逐語記録の検討 2 第 14 回 逐語記録の検討 3 第 15 回 ロールプレイ実習の振り返り 定期試験（まとめ）					

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 事前学習（2時間）：基礎文献を読み込み、ロールプレイ記録を作成して考察する。 事後学習（2時間）：ロールプレイとディスカッションを振り返り、次回に向けての課題について考察する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 授業中に適宜指示する。
オフィスアワー 授業中に各教員から案内する。
連絡先 授業に関する問い合わせは西まで。 nishi@post.ndsu.ac.jp
留意事項 受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な参加を望む。

人間生活学研究科（修士課程）		専攻名(コース名)	人間発達学専攻（臨床心理学コース）	研究分野	臨床心理論
授業コード	M5200	授業科目名	臨床心理実習I（心理実践実習）	期間	2022年度第1期、2022年度第2期、2023年度第1期、2023年度第2期
担当者	中内 みさ、西 隆太朗、日下 紀子、東 俊一	授業形態	実習	単位数	6単位
授業概要	2年次において、保健医療領域、教育領域、福祉領域などの学外実習施設での臨床心理実習（心理実践実習）を行う。そのための知識・技能・態度を身につけるべく、2年間を通じて事前事後の指導を受ける。実習総計450時間。				
到達目標	発達的には幼児から高齢者まで、病理水準としてはノーマルから精神病圏までのクライエントへの心理的支援の基本と実際を学ぶ。				
成績評価基準	実習先の評価および事前事後指導への参加内容（レポートを含む）により、総合的に評価する。				
留意事項	事前事後の指導、実習とともに、心理臨床家としての倫理規定を意識して活動に臨むこと。				
教材	必要に応じて指示する。				
授業予定	第1回 オリエンテーション 第2回 多職種連携および地域連携 第3回 医療保健領域の事前指導1 第4回 医療保健領域の事前指導2 第5回 医療保健領域での実習1 第6回 医療保健領域での実習2 第7回 医療保健領域での実習3 第8回 医療保健領域での実習4 第9回 医療保健領域での実習5 第10回 医療保健領域での実習6 第11回 医療保健領域での実習7 第12回 医療保健領域での実習8 第13回 実習報告 第14回 実習レポート作成 第15回 教育領域の事前指導1 第16回 教育領域の事前指導2 第17回 教育領域での実習1 第18回 教育領域での実習2 第19回 教育領域での実習3 第20回 教育領域での実習4 第21回 実習報告 第22回 実習レポート作成 第23回 福祉領域の事前指導1 第24回 福祉領域の事前指導2 第25回 福祉領域での実習1 第26回 福祉領域での実習2 第27回 福祉領域での実習3 第28回 福祉領域での実習4 第29回 実習報告 第30回 実習レポート作成 第31回 まとめ				

臨床心理実習I（心理実践実習）				単位数	6単位
授業コード	M5205	科目ナンバーリング		開講年度学期	2023年度第1期、2023年度第2期、2024年度第1期、2024年度第2期
担当者氏名	中内 みさ、西 隆太朗、日下 紀子、東 俊一				
時間割備考					
授業形態（主）	3 実験・実習・実技				
授業形態（副）					
担当形態	複数				
研究分野（大学院）	臨床心理論				
本授業の概要 2年次において、保健医療領域、教育領域、福祉領域などの学外実習施設での臨床心理実習（心理実践実習）を行う。そのための知識・技能・態度を身に付けるべく、2年間を通じて事前事後の指導を受ける。実習総計475時間。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)		
1	発達的には幼児から高齢者まで、病理水準としてはノーマルから精神病圏までのクライエントの心理的支援の基本を理解できる。				
2	発達的には幼児から高齢者まで、病理水準としてはノーマルから精神病圏までのクライエントの心理的支援を実際に行うことができる。				
3					
4					
5					
成績評価の基準			対応する到達目標の番号		
1	実習先の評価 (60%)		1/2		
2	レポート (20%)		1		
3	実習日誌 (20%)		1/2		
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回 オリエンテーション（全員） 第2回 多職種連携および地域連携（担当：中内） 第3回 医療保健領域の事前指導1 医療保健領域で実習するにあたっての必要書類作成、留意点など（担当：日下） 第4回 医療保健領域の事前指導2 病院での実習において必要な知識・技能について（担当：日下） 第5回 医療保健領域での実習1 第6回 医療保健領域での実習2 第7回 医療保健領域での実習3 第8回 医療保健領域での実習4 第9回 医療保健領域での実習5 第10回 医療保健領域での実習6 第11回 医療保健領域での実習7 第12回 医療保健領域での実習8 第13回 実習報告（全員） 第14回 実習レポート作成（担当：日下） 第15回 教育領域の事前指導1 教育領域で実習するにあたっての必要書類作成、留意点など（担当：西） 第16回 教育領域の事前指導2 適応指導教室での実習において必要な知識・技能について（担当：西） 第17回 教育領域での実習1 第18回 教育領域での実習2 第19回 教育領域での実習3 第20回 教育領域での実習4 第21回 実習報告（全員） 第22回 実習レポート作成（担当：西） 第23回 福祉領域の事前指導1 福祉領域で実習するにあたっての必要書類作成、留意点など（担当：中内） 第24回 福祉領域の事前指導2 児童福祉施設での実習において必要な知識・技能について（担当：中内） 第25回 福祉領域での実習1 第26回 福祉領域での実習2 第27回 福祉領域での実習3 第28回 福祉領域での実習4 第29回 実習報告（全員） 第30回 実習レポート作成（担当：中内）					

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 【参考書】 適宜紹介する。
オフィスアワー オリエンテーションで各教員のオフィスアワーを提示する。
連絡先 代表) 中内 mnakauchi@post. ndsu. ac. jp
留意事項 事前事後指導、実習ともに、心理臨床家としての倫理規定を意識し、体調を管理して活動に望むこと。

人間生活学研究科		専攻名(コース名)	人間発達学専攻臨床心理学コース 修士課程	研究分野	臨床心理論
授業コード	M5210	授業科目名	臨床心理実習II	期間	2022年度第1期、2022年度第2期、2023年度第1期、2023年度第2期
担当者	青山 新吾、相原 彰子	授業形態	学内実習およびカンファレンス	単位数	2単位
授業概要	1年次より継続して学内の臨床実習施設（清心こころの相談室）で学内教員のスーパービジョンのもとに、学生は来談事例を担当し、心理アセスメント法および面接法・遊戲療法等の実習を行う。面接相談の受付から心理面接の実施、記録の書き方、心理面接経過のまとめ方、他機関との連携なども実習する。実習後は定期カンファレンスで報告し、担当教員、学生全員で事例検討を行う。その他多様な心理臨床関連業務（相談室の事務受付・管理運営など含む）の実習を行う。				
到達目標	心理支援者としての職業倫理及び法的義務を理解した上で、発達障害、不登校や対人関係、家庭の問題、子育てなどの様々な悩みや不適応問題をもつクライエントへの受理面接ならびに心理療法や遊戯療法、その家族への支援、心理アセスメントなどの臨床経験を積む。病態の理解や対応の基本とともに、心理に関する支援を要する者への多職種連携および地域連携を習得する。				
成績評価基準	学内実習の評価と課題の成果を総合する。				
留意事項	臨床経験においては、担当クライエントの個人情報に対する倫理観を常に明解にすること。				
教材	配布する。				
授業予定	第1回 心理支援・心理療法の意義とその理論 第2回 心理支援者としての職業倫理及び法的義務 第3回 心理に関する支援を要するものへのチームアプローチ 第4回 多職種連携および地域連携 第5回 学内施設での受理面接と記録の書き方 第6回 インタークカンファレンス 第7回 インタークカンファレンスの振り返り 第8回 学内施設での実習I 第9回 担当事例のスーパービジョンとその振り返り 第10回 ケースカンファレンス 第11回 ケースカンファレンスでの振り返り 第12回 学内施設での実習2 第13回 担当事例のスーパービジョンとその振り返り 第14回 ケースカンファレンス 第15回 ケースカンファレンスの振り返り				

臨床心理実習II				単位数	2単位
授業コード	M5215	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第1期、2023年度第2期、2024年度第1期、2024年度第2期
担当者氏名	青山 新吾、相原 彰子				
時間割備考					
授業形態（主）	2演習				
授業形態（副）	2演習				
担当形態	複数				
研究分野（大学院）	臨床心理論				
本授業の概要 1年次より継続して学内の臨床実習施設（清心こころの相談室）で学内教員のスーパーヴィジョンのもとに、学生は来談事例を担当し、心理アセスメント法および面接法・遊戲療法等の実習を行う。面接相談の受付から心理面接の実施、記録の書き方、心理面接経過のまとめ方、他機関との連携なども実習する。実習後は定期カンファレンスで報告し、担当教員、学生全員で事例検討を行う。その他多様な心理臨床関連業務（相談室の事務受付・管理運営など含む）の実習を行う。					
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション				
到達目標	対応するディプロマポリシー ( 1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性 )				
1	心理支援者としての職業倫理及び法的義務を理解し説明できる。				
2	心理支援者としての職業倫理及び法的義務を理解した上で、発達障害、不登校や対人関係、家庭の問題、子育てなどの様々な悩みや不適応問題をもつクライエントへの受理面接ならびに心理療法や遊戯療法、その家族への支援、心理アセスメントなどの臨床を行うことができる。				
3	臨床経験をもとに、病態の理解や対応の基本とともに、支援を要する者への多職種連携および地域連携の意味を理解して表現することができる。				
4					
5					
成績評価の基準	対応する到達目標の番号				
1	1/2/3				
2	1/2/3				
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目	実務あり				
実務経験の授業への活用方法 各担当者の実務経験は、病院臨床や学校臨床など異なっている。経験フィールドの違いを、スーパーバイズやカンファレンスで必要に応じて使い分け、教育の質的向上に役立てる。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回 心理支援・心理療法の意義とその理論 第2回 心理支援者としての職業倫理及び法的義務 第3回 心理に関する支援を要するものへのチームアプローチ 第4回 多職種連携および地域連携 第5回 学内施設での受理面接と記録の書き方 第6回 インタークカンファレンス 第7回 インタークカンファレンスの振り返り 第8回 学内施設での実習 I 第9回 担当事例のスーパー・ビジョンとその振り返り 第10回 ケースカンファレンス 第11回 ケースカンファレンスでの振り返り 第12回 学内施設での実習2 第13回 担当事例のスーパー・ビジョンとその振り返り 第14回 ケースカンファレンス 第15回 ケースカンファレンスの振り返り					

定期試験 発表レポートやケース記録は、毎回の授業において適宜作成する。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 発表レポートの事前作成や、臨床実習後の記録の作成には60分以上の学修時間を想定している。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 授業内で適宜紹介する。
オフィスアワー 授業内で指示する。
連絡先 青山 : saoyama@m.ndsu.ac.jp
留意事項 臨床経験においては、担当クライエントの個人情報に対する倫理観を常に意識すること。

心理学研究法特論				単位数	2単位
授業コード	M5300	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	石原 金由				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	研究法分野				
本授業の概要					
<p>研究成果の信頼性は、研究計画に左右される。本授業では、「心理学研究法入門」を参考に、実験研究および調査研究に関する研究法について講義するとともに、種々の研究例を取り上げ、研究法の観点から研究批判を行ってもらう。また、事例研究については、研究デザインや研究上の留意点について解説する。</p> <p>授業の後半では、各自の研究計画を発表してもらい、他の受講者から批評をもらい、よりよい研究とするために討論をしてもらう。</p>					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)			
1	研究法に関する基本的な知識と技能が身につき、それらを応用することができる。			知識・技能	
2	研究計画が適切か否かを判断し、得られた知見が信頼しうるものかを批判的に検討する能力が身につく。			思考・判断・表現力	
3	受講者自身が研究計画を発表することによって、身につけた知識・技能を適用する力が身につく。			思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準		対応する到達目標の番号			
1	具体的な研究例を批評してもらう (20%)			1/2	
2	受講学生の研究テーマに関わる研究計画の発表 (40%)			2/3	
3	基礎的および臨床的論文を一本ずつ取り上げ、論文の批評をレポートする (40%)			2	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回 研究法の必要性 第2回 研究法に関する基礎知識 第3回 量的調査1（調査用紙作成の留意点） 第4回 量的調査2（心理尺度の作成） 第5回 量的調査3（分析方法） 第6回 実験研究1（要因計画） 第7回 実験研究2（実施上の留意点） 第8回 実験研究3（分析方法） 第9回 研究批判1（具体的な研究例を批判） 第10回 研究批判2（具体的な研究例を批判） 第11回 妥当性の低い研究デザイン 第12回 単一事例研究 第13回 研究批判3（具体的な研究例を批判） 第14回 研究計画の発表と批評 第15回 研究計画の発表と批評					

<b>定期試験</b> 試験は実施しないが、論文批評のレポートを提出してもらう。レポートでは、2本の論文（量的研究と事例研究）を読み、それらの批評をしてもらう。
<b>試験のフィードバックの方法</b>
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 各回の講義後、少なくとも30分の復習またはテキストの再読をして欲しい。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 南風原ら（2001）心理学研究法入門 東大出版
<b>オフィスアワー</b> 授業終了後に教室で質問を受ける。これ以外の時間での質問や相談については、予めアポイントメントをとって下さい。
<b>連絡先</b> kind03@agate.piala.or.jp stone@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> とくになし

				単位数	2単位
授業コード	M5310	科目ナンバーリング		開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	相原 彰子				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	研究法分野				
本授業の概要	統計に関する基本的事項について解説するとともに、収集された大量のデータをどのように整理し、分析するかについて模擬データを用いて解説する。				
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標					対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	統計解析の様々な手法を理解し、説明できる			知識・技能	
2	論文を読んで統計処理を理解し、研究計画から適切な統計処理を選択できる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	統計ソフトを実際に使い、模擬データの統計処理ができ、結果を分析することができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準		対応する到達目標の番号			
1	受講態度 (20%)			1/2/3	
2	課題レポート (80%)				
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回 統計の必要性と基礎知識 第2回 記述統計 第3回 相関 第4回 $\chi^2$ 検定1 第5回 $\chi^2$ 検定2 第6回 t-検定 第7回 分散分析 1 第8回 分散分析 2 第9回 分散分析 3 第10回 ノンパラメトリック検定 第11回 因子分析 1 第12回 因子分析 2 第13回 重回帰分析 1 第14回 重回帰分析 2 第15回 判別分析 第16回 レポート課題					

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 予習：当該学習分野の資料や講義内で使用する論文を読んでおくこと（20分） 復習：学習を振り返って自身でまとめ、関連資料を読むことや講義内で使用した統計処理は自身でも実行してみること（60分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 適宜、資料を配布する。
オフィスアワー 水曜日 3限
連絡先 sugihara@m.ndsu.ac.jp
留意事項 統計ソフトは、SPSSを中心に、Web上で利用できるANOVA4あるいはJS-Starを使用する。

				単位数	2単位
授業コード	M5320	科目ナンバーリング		開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	湯澤 美紀				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	発達基礎論				
本授業の概要	自己意識の発達やアイデンティティの確立のプロセスを乳児期から中年期にかけて概観しながら、自尊感情の獲得や青年期の発達課題、そして保護者理解について議論する				
アクティブラーニングの実施内容	問題解決型学習				
到達目標					対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	自己意識の発達やアイデンティティの確立のプロセスを踏まえ、青年に対する進路・職業選択における援助計画の立案・評価を行うことができる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	中年期以降のアイデンティティの知見を生かしながら、教育現場での保護者理解ができる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3					
4					
5					
成績評価の基準					対応する到達目標の番号
1	レポートに関しては、論理性やオリジナリティを考慮して採点する				1
2					
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回	人間発達学領域におけるアイデンティティ研究の意義				
第2回	自己意識に関する文献的展望				
第3回	乳児期における自己の発見				
第4回	1歳児から2歳児の発達と自己意識				
第5回	3歳児の発達と自己意識				
第6回	4・5歳児の発達と自己意識				
第7回	児童期：多面的な自己像の形成				
第8回	思春期にみられる心理的課題				
第9回	青年期：アイデンティティの形成にかかる諸要因				
第10回	青年期：キャリア形成と自己意識				
第11回	青年期にみられる心理的課題				
第12回	中年期：アイデンティティの危機と再生				
第13回	中年期にみられる心理的課題				
第14回	教育現場における保護者支援を考える				
第15回	一人ひとりのニーズに応じた援助計画				

定期試験 最終レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業の内容を整理するとともに、疑問や不明な点を明らかにし、批判的に考えたことを言語化し、まとめる。（事前・事後各1時間、総計30時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 隨時指示をする
オフィスアワー 水曜日 3限
連絡先 yuzawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項 なし

				単位数	2単位
授業コード	M5330	科目ナンバーリング		開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	堤 幸一				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	基礎分野				
本授業の概要					
まず記憶理論、次に学習理論を体系的に概説する。途中に、学んだ理論的知見を現実生活場面に応用するという視点でデモ実験・体験を取り入れる。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標			対応するディプロマポリシー ( 1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性 )		
1	学習理論・記憶理論を体系的・有機的に知り、説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	学習理論・記憶理論に対して、現実生活への応用の視点が持てる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
3					
4					
5					
成績評価の基準			対応する到達目標の番号		
1	予習レジュメに基づくプレゼン 50%			1/2	
2	課題レポート 50%			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1回 導入（記憶・学習・認知の基礎知識の確認） 2回 デモ実験1（自由再生） 3回 記憶理論1（記憶研究史） 4回 デモ実験2（M C Q）※ デモ実験1、2の合併課題レポート 5回 記憶理論2（記憶の諸相と仕組み） 6回 記憶理論3（忘却） 7回 学習理論1（学習研究史） 8回 学習理論2（連合説1：条件づけ） 9回 学習理論3（連合説2：スケジュールと強化随伴性） 10回 学習理論4（認知説） 11回 学習理論5（観察学習説・社会的学習説） 12回 デモ実験3（概念達成）※ デモ実験3の課題レポート 13回 概念学習 14回 学習障害（読み障害） 15回 まとめ（記憶・学習・認知の統合的理解） ※学習についてのまとめの課題レポート					

<b>定期試験</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・デモ実験に関するレポートを課す。</li><li>・総合的理解の到達度を測る最終レポートを課す。</li></ul>
<b>試験のフィードバックの方法</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・予習レジュメの例解は、授業後Web上に掲載して確認可能にする。</li><li>・デモ実験結果のレポートについては、授業中に口頭でフィードバックする。</li><li>・最終レポートの講評を本人のみが確認できるWeb上に掲載する。</li></ul>
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> <p>毎時、授業内容のレジュメ（予習すべき小問入り）を配布するので、これをホームワークとする。所要時間は1時間程度。 毎時、授業末にドリルを実施する。復習はドリル例解と自身の解答とを比較して、定着を図る。15~30分程度。</p>
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> <p>〈参考書〉 受講生の興味・関心・必要性に応じて、適宜指定する。 毎回の教材・資料はレジュメ形式で配布する。</p>
<b>オフィスアワー</b> <p>メールによる質問を受け付ける。</p>
<b>連絡先</b> <p>s9042@m.ndsu.ac.jp</p>
<b>留意事項</b>

				単位数	2単位
授業コード	M5360	科目ナンバーリング		開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	西 隆太朗				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	基礎分野				
本授業の概要 教育の場は、教育者と学習者の関係性、およびその間に生じるコミュニケーションによって成立している。関係性の中で展開する教育・学習の過程を心理学的に探究する方法について学び、とくに教育実践に関する事例研究の方法論について検討する。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	教育の場における教育者と学習者の関係性を理解するための方法論について学び、心理学的な観点から教育・学習について批判的に論じることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	期末レポート 50%			1	
2	各回のディスカッション			1	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目				実務あり	
実務経験の授業への活用方法 スクールカウンセラーとしての経験をいかし、教育の場における関係性について論ずる。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育・学習の過程と関係性の問題</li> <li>2. 発達の過程と学びについて</li> <li>3. 学びと動機づけについて</li> <li>4. 学びの意味とアイデンティティについて</li> <li>5. 個人の学びとコミュニティの関係について</li> <li>6. 正統的周辺参加論の意義について</li> <li>7. 正統的周辺参加論から見た学びの意味について</li> <li>8. 学校における問題の心理学的理解について</li> <li>9. 教育者と学習者の関係性について</li> <li>10. 教育の場におけるコミュニケーションの理解</li> <li>11. 教育の場における事例検討</li> <li>12. 保育の場における事例検討</li> <li>13. 教育の場における発達の問題と支援</li> <li>14. スクール・カウンセリングとその実際について</li> <li>15. 教育・保育の場における心理学的研究の方法論</li> </ol>					

定期試験 期末レポートによる。
試験のフィードバックの方法 授業後にmanaba folioでコメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 教育の心理的側面の理解について関連する資料の予習・復習が必要である（各回1時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 講義中に隨時配布、指示する。
オフィスアワー 金曜2限
連絡先 nishi@lime.plala.or.jp ※ ryu@lime.plala.or.jp から返信することがあります。
留意事項

社会心理学特論					単位数	2単位
授業コード	M5370	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第2期	
担当者氏名	芝崎 美和					
時間割備考						
授業形態（主）	1 講義					
授業形態（副）						
担当形態						
研究分野（大学院）	社会分野					
本授業の概要						
個々人の心理を理解する場合、個人の特性や内面だけでなく、社会的環境や対人相互作用に注意を向ける必要がある。本講義では、実践的心理学の基礎として社会心理学的な視点をもつことの重要性について学ぶ。						
アクティブラーニングの実施内容						
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)		
1	社会心理学の各分野における最新の知見について理解する。					
2						
3						
4						
5						
成績評価の基準				対応する到達目標の番号		
1	毎回の授業への参加度（60%）、レポートの成績（40%）の総合評価。					
2						
3						
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目						
実務経験の授業への活用方法						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
第 1 回 社会心理学とは（ガイドンスを含む） 第 2 回 社会的自己 第 3 回 社会的認知 第 4 回 対人的影響とコミュニケーション 第 5 回 対人関係 第 6 回 向社会的行動：援助行動 第 7 回 反社会的行動：攻撃行動 第 8 回 個人と集団 第 9 回 組織と人間 第 10 回 集合行動 第 11 回 文化 第 12 回 非言語行動 第 13 回 空間行動 第 14 回 座席行動 第 15 回 まとめと課題レポート						

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 岡 隆・坂本真士（2018）. ポテンシャル社会心理学 . サイエンス社 ISBN978-4-7819-1431-2 C3311 大坪庸介・アダム＝スミス（2017）. 英語で学ぶ社会心理学 . 有斐閣 ISBN978-4-641-18436-7 C1311 北川歳昭（2003）. 教室空間における着席位置の意味 . 風間書房 ISBN4-7599-1356-4 C3011 北川歳昭（2012）. 座席行動の心理学-着席位置をめぐる心理メカニズムの解明-. 大学教育出版 ISBN978-4-86429-136-1 C3011
オフィスアワー
連絡先
留意事項 講義科目ではあるが、演習方式を取り入れた双方向授業を目指すので、積極的に授業に参加してほしい。

精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)				単位数	2単位				
授業コード	M5410	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第1期					
担当者氏名	松本 洋輔								
時間割備考	隔年開講(心身医学特論は来年度開講)								
授業形態(主)	1 講義								
授業形態(副)	1 講義								
担当形態	単独								
研究分野(大学院)	精神・身体分野								
本授業の概要	<p>精神医学総論と精神症候学について概説する。            各精神疾患についての歴史・原因・症状・経過・診断・治療について概説する。            精神科治療法について概説する。            これらを通して、心理専門職が医療現場で協働していく際の基礎的素養の修得を目指す。</p>								
アクティブラーニングの実施内容									
到達目標	<p>対応するディプロマポリシー            (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)</p>								
1	学生が精神医学の概論について知識を持つ 1) 精神医学の歴史について学ぶ 2) 異常精神現象および精神疾患の症候学について知り、理解する 3) 記憶の障害について基本的な知識を持つ 4) 神経心理学について基本的な知識を持つ 5) 精神疾患の病因論について基本的な知識を持つ 6) 精神医学の心理学的な基本となる了解心理学と行動心理学、行動主義について学ぶ 7) 精神医学の疾患概念と診断基準について基本的な知識を持つ	知識・技能							
2	統合失調症、気分障害(うつ病、躁うつ病)について基本的な知識を身に着ける 1) 症状について説明できる 2) 経過と予後について理解する 3) 治療法について知識を持つ 4) 福祉制度について知る 5) 自殺予防との関わりについて知る	知識・技能							
3	嗜癖・依存症について基本的な知識を身につける 1) 症状と病態について説明できる 2) 経過と予後について理解する 3) 回復の過程について知識を持つ 4) 有効な介入について知る	知識・技能							
4	自閉スペクトラム症について理解する 1) 症状について説明できる 2) 経過と予後について理解する 3) 治療法について知識を持つ 4) 教育、福祉との関わりについて知る	知識・技能							
5	器質性精神疾患について理解する 1) 認知症の種類について知る 2) 認知症の症状について説明できる 3) 認知症の経過と予後について説明できる 4) その他の器質性精神疾患にどんなものがあるか知る	知識・技能							
成績評価の基準	対応する到達目標の番号								
1	レポート(25%)	1/2/3/4/5							
2	小テスト(25%)	1/2/3/4/5							
3	最終テスト(50%)	1/2/3/4/5							
4									
5									
実務経験のある教員による授業科目	実務あり								
実務経験の授業への活用方法									
精神科医としての臨床経験を元に教育を行う									
日本語以外の言語による授業									
授業予定一覧									
第1回	保健医療分野における多職種専門家の協働体制について・精神医学概論 I								
第2回	精神医学概論 II・保健医療分野に関わる公認心理師の実践								
第3回	精神科症候学 I								
第4回	精神科症候学 II								
第5回	統合失調症 I								
第6回	統合失調症 II								
第7回	認知症 I								
第8回	認知症 II								
第9回	気分障害 I								
第10回	気分障害 II								
第11回	知的障害と自閉症スペクトラム障害 I								
第12回	知的障害と自閉症スペクトラム障害 II								
第13回	嗜癖・依存症 I								
第14回	嗜癖・依存症 II								
第15回	パーソナリティ障害								



定期試験 定期試験7月
試験のフィードバックの方法 採点結果を返却する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 適宜レポートの提出を求め、各階授業の理解内容をチェックする。レポートは1時間以内に作成できるものとする。
必携書（教科書販売） なし
必携書・参考書（教科書販売以外） 適宜紹介する
オフィスアワー
連絡先
留意事項 心身医学特論とともに受講することが望ましい。

臨床大脳発達学特論				単位数	2単位
授業コード	M5430	科目ナンバーリング		開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	林 泰資				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	精神・身体分野				
本授業の概要 脳の細胞・組織レベルの理解のもとに、感覚、運動、睡眠などの基礎的な脳機能について論述する。その後、言語、認知、注意、記憶、学習などの高次脳機能と、その障害について学習する。さらに、精神神経疾患、気分障害、発達障害などについて概説する。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)		
1	神経科学の理解のもとに、精神神経疾患、気分障害、発達障害の医学的理解を目標とする。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準			対応する到達目標の番号		
1	課題レポート(80%)、質疑応答・受講状況(20%)などから総合的に評価する。				
2					
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回：神経科学の基礎（ニューロンとグリア、活動電位、シナプス伝達） 第2回：神経科学の基礎（脳の構造と機能） 第3回：感覚系と運動系（化学感覚系、視覚、聴覚、平衡感覚、体性感覚） 第4回：感覚系と運動系（脳・脊髄による運動制御） 第5回：脳と行動（情動、動機づけ） 第6回：脳と行動（脳のリズムと睡眠） 第7回：脳と行動（言語、注意） 第8回：脳の可塑性（記憶系） 第9回：脳の可塑性（学習と記憶の分子メカニズム） 第10回：精神神経疾患（アルツハイマー病） 第11回：精神神経疾患（脳卒中） 第12回：精神神経疾患（うつ病） 第13回：脳機能と発達障害（自閉症スペクトラム障害） 第14回：脳機能と発達障害（注意欠陥・多動性障害） 第15回：まとめ					

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 事前に与えられた資料に目を通しておくこと。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 参考資料、文献などを必要に応じて配付または紹介する。
オフィスアワー 1期：月曜日 5限
連絡先 yhayashi@m.ndsu.ac.jp
留意事項 脳科学と周辺領域の書籍、学術雑誌などに目を通し、文献検索を行うなど、関係する情報について考察する機会をもつようつとめてほしい。

障害児心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)				単位数	2単位	
授業コード	M5440	科目ナンバーリング		開講年度学期	2023年度第1期	
担当者氏名	東 俊一					
時間割備考						
授業形態(主)	1 講義					
授業形態(副)						
担当形態	単独					
研究分野(大学院)	精神・身体分野					
本授業の概要						
知的障害、発達障害を中心にその心理学的特性、行動特性を理解したうえで、社会生活で必要とされるさまざまなレパートリーを形成する技法や、公認心理師としての支援・実践のありかたについて学ぶ。						
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)			
1	子どもの抱える課題を客観的に理解したうえで、適切な技法選択及び指導手続をきを作成できることを目的とする。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性			
2						
3						
4						
5						
成績評価の基準		対応する到達目標の番号				
1	授業内での発表(50/100)		1			
2	レポート(50/100)		1			
3						
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目		実務あり				
実務経験の授業への活用方法						
岡山県教育委員会からの委託を受け、「県巡回相談事業に係る専門家チーム員」として保育・学校教育現場からの相談に応じ、ケース会議での助言・指導・監督、及び計画作成という業務に携わっていた経験、及び岡山県教育委員会でのスクールカウンセラー、岡山市教育委員会でのスクールカウンセラー、スーパーバイザー業務に携わっている経験から、特別な支援を要する児童の教育現場における困難内容と支援の計画、実践に関する問題の構造を多角的に取り上げ、学校・保護者・地域が連携し、実行可能な支援方法について学生に投げかけることで、学生に支援の計画・実践のための実践的な力を促す。						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
第1回 : 知的障害児のことばと認知の課題に関する理解と支援 第2回 : 知的障害児の運動機能と記憶の課題に関する理解と支援 第3回 : 発達障害の理解（生理・病理） 第4回 : 発達障害の理解（心理・社会生活） 第5回 : 学習理論（レスポンデント条件付け） 第6回 : 学習理論（オペラント条件付け） 第7回 : 対人相互作用の形成 第8回 : 生活スキルの形成 第9回 : コミュニケーション行動の形成 第10回 : 集団参加の促進 第11回 : 概念形成 第12回 : 行動問題へのアプローチ 第13回 : 障害のある子どもの家族支援の実践 第14回 : 障害児福祉に関する理解と公認心理師としての支援の実践 第15回 : 障害者福祉に関する理解と公認心理師としての支援の実践						

定期試験
試験のフィードバックの方法 授業内で発表に対してフィードバックする。 必要に応じて質問に対応する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 この授業では、1回目に資料を配布します。毎回の授業前に資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で授業に臨むこと（30分）。 授業後は、内容を再確認し、合わせて参考図書を参照して体系的に理解するようまとめること（30分）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 適宜、指示・紹介する
オフィスアワー 金曜日1限
連絡先 s-higashi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

心理療法特論 I					単位数	2単位		
授業コード	M5510	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第1期			
担当者氏名	中内 みさ							
時間割備考								
授業形態（主）	1 講義							
授業形態（副）	2 演習							
担当形態	単独							
研究分野（大学院）	心理支援分野							
本授業の概要	遊戲療法、表現療法などの非言語的アプローチについて、各種技法の理論的背景、象徴的表現の意義、臨床実践における留意点や課題などを、具体的な臨床素材を用いて学ぶ。							
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション						
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)					
1	遊戯療法、表現療法などの非言語的アプローチの理論について説明することができる。							
2	非言語的アプローチにおける表現の背景にある子どもの気持ちや象徴意味を読み取ることができる。							
3	非言語的アプローチの実践における留意点を述べることができる。							
4								
5								
成績評価の基準		対応する到達目標の番号						
1	3回のレポート課題 (60%)			1/2/3				
2	発表・討論への積極的参加 (40%)			1/2				
3								
4								
5								
実務経験のある教員による授業科目								
実務経験の授業への活用方法								
日本語以外の言語による授業								
授業予定一覧								
第1回 心理療法とは何か 第2回 遊戯療法 1 原理 第3回 遊戯療法 2 アクスラインを読む 第4回 遊戯療法 3 事例（1）トムの事例 第5回 遊戯療法 4 事例（2）エンマの事例 第6回 箱庭療法 1 原理 第7回 箱庭療法 2 実習と作品の見方 第8回 箱庭療法 3 事例（1）幼児期・学童期の子どもの箱庭療法 第9回 箱庭療法 4 事例（2）思春期の子どもの箱庭療法 第10回 箱庭療法 5 事例（3）思春期以降の子どもの箱庭療法 第11回 風景構成法 1 実習と原理 第12回 風景構成法 2 事例 第13回 MSSM 1 実習と原理 第14回 MSSM 2 事例 第15回 まとめ								

定期試験
試験のフィードバックの方法
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 文献の指定された箇所をあらかじめ読み、自分なりの考え方や疑問をレポートにまとめておくこと（約30分）。 授業後は、討論を振り返り、異なる視点からのコメントなどを参考にしながらもう一度文献を読み返し、新たな疑問等をまとめておくこと（約40分）。</p>
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 【必携書】 アクスライン「遊戯療法」岩崎学術出版 河合隼雄「箱庭療法入門」誠信書房ほか必要に応じて指示する。
オフィスアワー 月曜日4限目および水曜日3限目
連絡先 中内 mnakauchi@post.ndsu.ac.jp
留意事項 受講者自身の体験と重ね合わせて考察しつつ学習するよう、積極的な参加と誠意ある態度を望む。

心理療法特論Ⅰ				単位数	2単位	
授業コード	M5520	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第1期	
担当者氏名	西 隆太朗					
時間割備考						
授業形態（主）	1 講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	心理支援分野					
本授業の概要 心理療法の治療論について考察する。講読形式を取り入れ、主として精神分析、ユング心理学、来談者中心療法等における基礎文献の検討を行い、セラピーの関係性に基づく治療論の概念について学ぶ。また、臨床実践に基づいた具体例について、ディスカッションを通しての検討を行う。						
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)			
1	さまざまな学派における心理療法の治療論についての理解を持ち、関係性の理解を踏まえて自らの心理臨床論について考察し、論じることができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性			
2						
3						
4						
5						
成績評価の基準		対応する到達目標の番号				
1	期末レポート 50%		1			
2	授業時のディスカッションへの参加 50%		1			
3						
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目		実務あり				
実務経験の授業への活用方法 臨床心理士としての経験を活かして心理療法について論じる。						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理療法の学派について</li> <li>2. 精神分析の基本的治療論について</li> <li>3. 精神分析の実際</li> <li>4. ユング派心理療法の基本的治療論について</li> <li>5. ユング派心理療法の実際</li> <li>6. 来談者中心療法の基本的治療論について</li> <li>7. 来談者中心療法の実際</li> <li>8. 各学派における理論の展開</li> <li>9. セラピーにおける関係性の理解</li> <li>10. セラピーにおける語りとイメージの理解</li> <li>11. 転移の理解</li> <li>12. 逆転移の理解</li> <li>13. セラピーにおける枠の問題</li> <li>14. セラピストの介入について</li> <li>15. 関係性に基づく治療論について</li> </ol>						

定期試験 期末レポートによる
試験のフィードバックの方法 授業後にmanaba folioでコメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 心理療法の多様な学派について文献の予習・復習が必要である（各回1時間程度）。
必携書（教科書販売） 西隆太朗『相互性の心理臨床入門』（創元社） ISBN: 978-4-422-11791-1
必携書・参考書（教科書販売以外） 授業中に隨時配布、指示する。
オフィスアワー 金曜2限
連絡先 nishi@lime.plala.or.jp ※ ryu@lime.plala.or.jp から返信することがあります。
留意事項

授業法特論	単位数	2単位		
授業コード	M5530	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	西 隆太朗			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	心理支援分野			
本授業の概要	<p>投影法について、とくに被検査者との関係性を重視する立場からの検討を行う。ロールシャッハをはじめとする投影法についての理解を持った上で、イメージや語りを通じて多様な情報を得る TAT や描画を用いた投影法など、実際に体験することを通じて分析・解釈の方法を学ぶ。また、心理臨床の実際における投影法理解について考察する。</p>			
アクティブラーニングの実施内容	体験学習			
到達目標	対応するディプロマポリシー ( 1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性 )			
1	投影法における解釈およびクライエントからのコミュニケーションを理解するための多様なアプローチについて学び、これについて批判的に論ずることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	投影法を実施し、その臨床心理学的解釈をまとめ、考察することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3				
4				
5				
成績評価の基準	対応する到達目標の番号			
1	期末レポート 50%			1/2
2	投影法の解釈レポート 20%			2
3	解釈に関する授業時のディスカッションへの参加 30%			1/2
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目	実務あり			
実務経験の授業への活用方法	臨床心理士としての経験を活かしてクライエントの反応・コミュニケーションの解釈について論じる。			
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧	<ol style="list-style-type: none"> <li>投影法を理解する枠組みについて</li> <li>投影法の臨床論的意義について</li> <li>ロールシャッハ・テストの検討</li> <li>ロールシャッハ・テストの解釈</li> <li>TAT の検討</li> <li>TAT の解釈</li> <li>描画を用いた投影法の検討</li> <li>描画を用いた投影法の解釈</li> <li>投影法 (TAT) の体験</li> <li>投影法 (TAT) の解釈</li> <li>投影法 (TAT) の実際</li> <li>検査者と被検査者の関係性について</li> <li>投影法におけるコミュニケーションの理解について</li> <li>投影法に関する事例検討</li> <li>心理臨床の実際における投影法理解について</li> </ol>			

定期試験 期末レポートによる
試験のフィードバックの方法 授業後にmanaba folioでコメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 投影法実施に必要な方法の理解、解釈論の理解について予習・復習が必要である（各回1時間程度）。
必携書（教科書販売） 西隆太朗『相互性の心理臨床入門』（創元社） ISBN: 978-4-422-11791-1
必携書・参考書（教科書販売以外） 授業中に隨時配布、指示する。
オフィスアワー 金曜2限
連絡先 nishi@lime.plala.or.jp ※ ryu@lime.plala.or.jp から返信することがあります。
留意事項

学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）				単位数	2単位
授業コード	M5610	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	青山 新吾				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	専門関連科目				
本授業の概要 文部科学省によるスクールカウンセラー事業も、中学校を中心とする時代から、幼稚園、小学校、高等学校とその対象範囲が拡大する時代へと移った。そこで、各世代に特有の問題や、先生方との連携や協働の在り方、不登校やいじめ、発達障害等のトピックについての臨床心理学的知見について取り上げる。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標			対応するディプロマポリシー ( 1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性 )		
1	学校臨床心理学の実践的知見について理解する。			知識・技能	
2	学校臨床心理学の実践的知見を理解した上で、それを自分なりの構成と表現で発表できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準		対応する到達目標の番号			
1	授業での発表内容 30%			1/2	
2	授業での貢献度（ディスカッションでの発言） 30%			1/2/3	
3	総合レポート 40%			1/2	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第 1 回：学校生活の外観 第 2 回：学校教育のシステム、文化 第 3 回：学校臨床心理学とは 第 4 回：不登校をめぐる現状 第 5 回：不登校への学校心理臨床 第 6 回：いじめ・暴力行為をめぐる現状と支援 第 7 回：特別支援教育とは 第 8 回：特別支援教育の具体的取組 第 9 回：幼児期の子どもたちその現状と支援 第 10 回：発達障害のある子どもとの現状と臨床の心構え 第 11 回：保護者への支援 第 12 回：学校臨床のアセスメント 第 13 回：関係諸機関との連携 第 14 回：スクールカウンセラーの役割 第 15 回：まとめと振り返り					

<b>定期試験</b> 15回の講義後に総合レポートの作成を求める。
<b>試験のフィードバックの方法</b>
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 各回のテーマについて各自で基礎的事項についての事前学習に積極的に取り組んで欲しい。そのための時間を60分程度と想定している。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 日本学校心理学会編「学校心理学ハンドブック第2版」教育出版 その他、授業中に適宜配布する。
<b>オフィスアワー</b> 講義中に指示する。電子メール等による質問、相談は随時受け付ける。
<b>連絡先</b> saoyama@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 自身の体験や臨床実感と重ねながらディスカッションを進めていきたい。

司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）			単位数	2単位
授業コード	M5620	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	関本 憲章			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態				
研究分野（大学院）	専門関連科目			
本授業の概要				
1 日本における司法、特に裁判制度の理解 2 犯罪心理学等に基づく矯正・保護制度の理解 3 犯罪を犯した人への支援と社会福祉の理解				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標		対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)		
1	犯罪に係る司法制度と行政的枠組みを理解するとともに、犯罪の原因となる生育・家庭等についての犯罪心理学理論を踏まえた改善・支援の現状について理解を深める。			
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準		対応する到達目標の番号		
1	1 質問課題に解答する試験及び課題に対する点数評価（70点） 2 授業における質疑・レポートによる理解度の評価（30点） 3 上記1及び2の総計100点評価			
2				
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回 日本の司法制度：警察、検察、裁判所についてその役割を理解する。 犯罪捜査、裁判、矯正施設の役割				
第2回 司法制度に関連する心理学的視点：犯罪司法及び犯罪心理学の視点				
第3回 犯罪の原因及び日本における犯罪の概要：犯罪心理学等から犯罪行為・心理を概観する				
第4回 法務省矯正局の行政的枠組み、概要				
第5回 少年矯正：非行、家庭裁判所、少年鑑別所、少年院の業務概要				
第6回 非行性の軽減を目的とした矯正教育の要点				
第7回 成人矯正：犯罪、裁判制度、拘置所、刑務所の業務概要				
第8回 非行・犯罪に関する司法制度についての質疑及び今後の課題				
第9回 更生保護制度について：日本の社会福祉の観点から概観し、特に岡山県に関連した人物や組織について理解を深める。				
第10回 再犯の防止に関連した社会内処遇の概要：法務省保護局の行政的枠組み、概要				
第11回 保護観察制度、保護司制度及び更生保護施設の役割				
第12回 更生保護制度における関係機関・団体との関係：特に福祉機関、就労支援関連等について				
第13回 矯正・更生保護における最近の課題、動向について				
第14回 司法・矯正・保護制度に關わる資格及び心理学的業務の概要				
第15回 認定心理師の資格と業務について				

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 1 更生保護制度及び心理学理論と心理的支援（社会福祉士シリーズ、第2及び第20、弘文堂） 2 公認心理師エッセンシャルズ（有斐閣）
オフィスアワー
連絡先
留意事項 1 授業の進捗状況及び施設の協力が得られた場合、授業内容に沿った施設見学（更生保護施設等）を計画する。

産業心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）				単位数	2単位	
授業コード	M5630	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第2期	
担当者氏名	國村 博子					
時間割備考						
授業形態（主）	1 講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）	専門関連科目					
本授業の概要 産業・労働領域における職場のメンタルヘルスの現状と対策に関する基本的な理解を深め、専門職に求められる姿勢を身につけることで、他職種とのチーム連携を推進する上で効果的な心理的支援を行うための知識の習得を目指す。						
アクティブラーニングの実施内容						
到達目標			対応するディプロマポリシー ( 1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性 )			
1	産業・労働分野において心理職が関わる問題を理解し説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力		
2	産業・労働分野における心理職の支援内容や実践内容を理解し説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力		
3	職場におけるメンタルヘルス対策の重要性について自身の視点で論じることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
4						
5						
成績評価の基準			対応する到達目標の番号			
1	受講態度、リアクションペーパー : 70%			1/2/3		
2	期末レポート : 30%			1/2/3		
3						
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目			実務あり			
実務経験の授業への活用方法 産業カウンセラー、公認心理師、社会保険労務士として、会社組織の産業保健に携わる経験から、現状や昨今の課題への対応等、事例を用いて解説する。						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧						
第 1 回 産業・労働分野のメンタルヘルスの歴史 第 2 回 労働関連法規 第 3 回 労災認定と事業者責任 第 4 回 安全配慮義務 第 5 回 過重労働と夜勤労働者の健康管理 第 6 回 安全衛生委員会と心の健康作り計画 第 7 回 職業性ストレスに関する諸理論と職場の対策 第 8 回 ストレスチェック制度とその運用 第 9 回 4つのケア（セルフケア、ラインによるケア、事業場内産業保健スタッフ等によるケア、事業場外資源によるケア） 第 10 回 1次予防（メンタルヘルス不調を未然に防止する） 第 11 回 2次予防（メンタルヘルス不調を早期に発見し、適切な措置を行う） 第 12 回 3次予防（メンタルヘルス不調となった労働者の職場復帰の支援等を行う） 第 13 回 職場のハラスメント対策 第 14 回 多様な労働者への対応 第 15 回 キャリア支援（ジョブカード制度、セルフキャリアドッキング制度） 第 16 回 まとめ・期末レポート						

定期試験 期末レポートによる。
試験のフィードバックの方法 レポート発表後にフィードバックする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 各回の予習として事前配付資料に目を通し、自己の見解を述べることができるようにしておく（1時間）。 期末レポート（2時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） <参考書等> 「Relax 職場における心の健康づくり～労働者の心の健康の保持増進のための指針～」 「Selfcare こころの健康 気づきのヒント集」 「Return 改訂・心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」 「職場復帰支援プログラムとは」： (厚生労働省・(独)労働者健康安全機構)
オフィスアワー 質問は授業終了後に教室で受け付ける。
連絡先 連絡先アドレス : aiilabo0204@gmail.com
留意事項 毎回リアクションペーパーを配布し、課題や感想など記入を求める。

家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）				単位数	2単位
授業コード	M5640	科目ナンバーリング	開講年度学期	2023年度第1期	
担当者氏名	高野 恵代				
時間割備考	9月未定 1~5時限				
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	専門関連科目				
本授業の概要 本講義の目的は、家族が人間の発達にどのような意味をもつのか、ライフサイクルの視点から、社会的・歴史的・文化的文脈の中に位置づけて考察できるようになることである。とくに、個人や家族の抱えるさまざまな心理的・行動的な困難や問題を家族という文脈の中で理解し、解決に向けた援助を行っていこうとする対人援助方法論である「家族療法」を中心に概説する。理論だけでなく、医療、教育、福祉、司法領域で行われている実践についても紹介し、家族を取り巻く環境や社会についても取り上げる。また、家族アセスメントで使用される心理検査についても体験し、実践に繋がる知見を学ぶ。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)		
1	(1) 家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法について理解し、具体的に説明ができる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	(2) 地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について理解し、具体的に説明ができる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
3	(3) 心理に関する相談、助言、指導等に対し、上記の(1)及び(2)を応用できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準			対応する到達目標の番号		
1	(1) 授業内の取り組み姿勢（発表回数、ディスカッションへの参加度）30%。			1/2/3	
2	(2) 最終レポート（70%）。			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回 オリエンテーション：家族と社会 第2回 家族システム論：家族をどう捉えるか 第3回 家族を理解するための概念：家族をどのように見立てるか 第4回 家族の発達(1)：独身の若い成人期 第5回 家族の発達(2)：結婚による家族の成立期 第6回 家族の発達(3)：乳幼児を育てる段階 第7回 家族の発達(4)：小学生の子どもとその家族 第8回 家族の発達(5)：思春期・青年期の子どもとその家族 第9回 家族の発達(6)：老年期の家族 第10回 家族への臨床的アプローチ 第11回 夫婦関係の危機と援助 第12回 子育てをめぐる問題と援助 第13回 家族が経験するストレスと援助 第14回 家族の中のコミュニケーション 第15回 家族アセスメント：心理検査の実施と分析および解釈の体験					

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 (1) 予定されているテーマに関して、事前に提示する事前課題に取り組んでから授業に臨むこと（2時間程度）。 (2) 授業で学んだ理論やキーワード、事例をもとに、自分なりの考察を深めること（2時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） テキストは使用しないが、講義時に適宜プリントを配布する。また、参考文献・資料は授業内で適宜紹介する。
オフィスアワー
連絡先 質問は授業開始前もしくは終了後に受け付ける。また、必要に応じてメールでも対応する。 メールアドレス : ytakano@asu.aasa.ac.jp
留意事項 文献講読や発表資料の作成など、授業外で行う作業がある。

健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）				単位数	2単位
授業コード	M5650	科目ナンバーリング		開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	多田 志麻子				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	臨床心理学 健康心理学				
本授業の概要					
<p>心の健康教育に関する理論と実践を学ぶ。</p> <p>心の健康の保持増進や病気の予防に関する理論を理解したうえで、グループワークや研究論文の実践事例の発表・討論を取り入れ、心の健康の予防、維持増進の心理支援のための実践方法を修得する。</p>					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)			
1	心の健康教育に関する理論を説明できる。				
2	心の健康教育に関する実践方法を支援に活用できる。				
3					
4					
5					
成績評価の基準		対応する到達目標の番号			
1	授業での発表・討論への参加 (40%) ,			1/2	
2	レポート課題 (60%)			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第 1 回：心の健康教育とは 第 2 回：予防、健康行動の維持増進のための心理学的理論 第 3 回：セルフケアのための自己理解 第 4 回：健康とパーソナリティ 第 5 回：健康とストレス 第 6 回：健康と生活習慣 第 7 回：児童期・青年期（学校）の心の健康教育 第 8 回：成人期（職場）の心の健康教育 第 9 回：老年期の心の健康教育 第 10 回：災害と心の健康教育 第 11 回：ストレスマネジメント 第 12 回：認知行動療法 第 13 回：アサーショントレーニング 第 14 回：アンガーマネジメント 第 15 回：今後の課題・まとめ レポート提出					

定期試験
試験のフィードバックの方法
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 講義形式授業後は、配布資料とノートを見直し、授業内容を復習し、次の授業に臨む（30分）。 また、専門雑誌から健康心理学に関連する研究論文を選び、レジメを作成する。それに基づいて発表、議論を行う（2時間）。</p>
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 参考文献：竹中晃二編 健康心理学 北大路書房 宮脇穂・大野太郎・藤本豊・松野俊夫編 健康・医療心理学 医師薬出版 適宜資料を配付する。
オフィスアワー 質問は授業終了後またはメールで受け付ける。
連絡先 s9031@m.ndsu.ac.jp
留意事項